分野別意見交換会・報告書

開催日時	平成２７年１月２１日（水）　１３時３０分　～　１５時４５分	
開催場所	生涯学習総合センター　３階　研修室３	
出席議員	出席者	長谷川光雄、渡部誠一郎、成田芳雄、斎藤基雄、佐野和枝、 大竹俊哉、古川雄一
参加者	別紙のとおり	
主な意見 提言事項	**【参加者発言】** ○同友会の条例の取り組みについて簡単に紹介させていただく。同友会では、閣議決定を受けて１２年前から各自治体に対し条例制定の働きかけを取り組んできた。会報を発行し、紙面の中で全国の取り組み事例などを紹介し支援している。２０１４年１０月には会津若松市にも提言書を提出している。また、講師などを招聘している。 **【議会発言】** **→（報告として伺います。）** **【参加者発言】** ○以前のまちづくりは、郊外を開発して拡大路線にあった。しかし、人口減少の時代が到来し、今後のまちづくりはコンパクトシティがカギとなっている。今回の条例制定に向けてはコンパクトシティを念頭に置きながら、フレキシブルに対応できるように進めるべきと考える。また、人口減少社会の中で域内経済を維持させていくのは難しい。交流人口を増やす努力をもっとすべきである。今政府が取り組もうとしている、東京から地方への移住策はうまくいくとは思えない。ターゲットを団塊の世代に絞り、UターンやIターン制度をうまく活用して受け皿となる自治体づくりが大切と考える。地方創生の１つとして観光産業は非常に重要であると考える。しかし、戊辰戦争、白虎隊観光では平成４年の入込数を超えることは不可能。新しい観光ツールが必要であり、今まだ光の当たっていない戊辰戦争以降の会津の歴史、特に商人文化にスポットを当てるべきである。 **【議会発言】** **→（ご意見、要望として伺います。）**	

	【参加者発言】 ○理念条例と言っても世の中の流れは常に変わり続ける。今日は様々な団体が参加しているが、まず行動すべきである。ＡＮＦの取り組みを通して産官学金融が連携していくことが大切。我々団体も補助金頼みでではなく、自分たちで行動、発信していくことが重要。 **【議会発言】** **→（ご意見として伺います。）** **【参加者発言】** ○ほかの観光地に行った時に感じたことだが、外国人観光客が多く目につく。会津若松市でも外国人の観光誘客に力を入れるべきではと考える。中国、台湾、韓国の人を呼び込むような具体的な政策を作ってほしい。 **【議会発言】** **→（ご意見として伺います。）** **【参加者発言】** ○乾杯条例が昨年１２月に制定された。乾杯条例は酒のみならず、コメの消費拡大、漆器、料理、サービスなど幅広く活用できるので、今後様々な取り組みを進めていきたいと考えてる。国内競争では将来的に先細ることが目に見えている。日本酒業界は４０億人いるといわれるワイン市場を見据えており、３億から４億人といわれる日本酒のマーケットをワインのレベルまで引き上げていくことを考えている。そして、会津の各酒蔵を世界的に有名なワイナリーになるように目指している。条例制定に当たっては戦略的なスケジューリング（何年後にはこうなりたいという創造）が可能となるような条例にすべきで、仏作って魂入れずにならないようにして欲しい。 **【議会発言】** **→（ご意見として伺います。）** **【参加者発言】** ○平成元年から平成９年までの東山温泉の入込数は８０万人をピークに７０万人程度をキープしてきた。それだけの入込数があったにも関わらず個別の経営が忙しく、温泉街という商品ブランドに手を付けられずに来た。廃業ホテルもそのままだ。昨年の東山温泉の観光消費額は１００億円。

	芦の牧温泉と合わせれば１６０億円あったと言われている。地域内再投資の考えのもと、東山に投資してほしいし、その仕組み作りを支援してほしい。その際には入湯税を原資に宛てることはできないのか。 **【議会発言】** **→（要望として伺います。）** **【参加者発言】** ○バブル前までは大都市で売り、外貨を稼ぎ、地元にお金を落としてきたのが漆器産業である。大都市圏での出店、販売は厳しいものと認識するが観光ポテンシャルの高い会津においては、誘客があれば漆器も連動して向上する。その際に気を付けなければならないことは、高付加価値商品、物語性のある商品を販売することだ。会津漆器はネームバリューもあるので観光客を誘客してほしい。条例化にあたっては横の連携を生かすことが重要であり、また我々の会津漆器をうまく生かして会津の活性化につなげてほしい。 **【議会発言】** **→（要望として伺います。）** **【参加者発言】** ○若者の流失が問題である。ＪＣもメンバーが減少している。後継者を育成できるような条例を求める。これから条例を制定していく中で、もう少し制定する意味、目的を議論して煮詰めてみてはどうかと感じた。 **【議会発言】** **→（要望として伺います。）** **【参加者発言】** ○産業を振興するためにはある程度予算が必要と考える。検討してほしい。工業団地を造成し企業誘致しても、就労する人をすぐには集められないのが現状がある。卵が先か鶏が先かを議論する気はないが、実効性、即効性があるものを期待する。地に足の着いた政策が必要である。上っ面ばかりで一本筋の通っていない気がする。理念は立派だが、例えば、会津大学の利活用を盛り込むなど他の自治体が真似できない条例にしなければ作ったとしても意味がないのではないか。ストーリーが見えない。

	【議会発言】 →（議会として考えているのは、条例の中で産業振興会議を位置づけ、また予算もつけ、恒久的なまちづくり、地域経済の振興施策の議論をしていきたい。人口減少、高齢化の問題は進んでいる。市、団体の皆さんが知恵を絞り、横の連携でもってまちづくりをしていかないと今後は駄目だと感じている。自分たちばかりの尺度で物事を進めていっては、今後の地域活性化にはつながらない時代だと考える。） **【参加者発言】** ○大企業を誘致しても下請する受け皿企業、地域企業との連携等がないと企業誘致は成功しない。将来を見据えていま何をやるかを考え、それぞれの団体が連携をしていくことが重要だ。会津の職業高校の地元就職率は半分だが浜の方はほぼ１００％。地元への就職率が悪ければ景気が上向かないのも当然だ。私達ものづくり企業は毎月同業者で勉強会をやっている。まずは始める、自分たちでやれることはやるべきだと考える。 **【議会発言】** →（ご意見として伺います。） **【参加者発言】** ○条例化にはもっと早くから取り組むべきだった。会津は観光が一番早く外貨が稼げる。ミニ新幹線などの交通インフラ整備を何回も要望したが沿線自治体の負担が大変ということで実現しなかった。もっと早く行政が目覚めればこんなにさびれなかった。一生懸命誘致に歩いたけれど、アクセスが悪いということで誘致には結びつかなかった。交通の便の改善など、市民の意見をもっと早くから聞いてほしかった。 **【議会発言】** →（ご意見として伺います。） **【参加者発言】** ○新幹線は広軌、狭軌の問題解決が難しいと聞いたことがある。いずれにせよ会津が陸の孤島になりつつあると感じる。 **【議会発言】** →（ご意見として伺います。）

	【参加者発言】 ○八重の桜関連で京都市と交流事業を行ったが、京都の具体的な観光政策に比べ、会津の観光政策が貧相で恥ずかしかった。アンテナを高くして先進自治体の情報を収集してほしい。 **【議会発言】** **→（皆さんからいただいた具体的な施策の話は、産業振興会議の中で徹底的にやりたいと考えている。これが今回議会で提案している産業振興基本条例である。）** **【参加者発言】** ○自分の作っている商品がニーズにマッチしているのか不安になる。危機感さえ抱いている。自分の商品が売れないのはなぜか、観光客がよそに行ってしまった理由は何のかを考えることが重要。企業家がまずすべきは自分達でできることを一生懸命やる。条例については、我々企業家が作ってほしいと声を上げることが先なのかなと感じる。 **【議会発言】** **→（条例を制定するのはあくまで市であると考えている。責任をもって事業を執行していくためには、やはり市のほうで議論し、提案することが重要である。）** **【参加者発言】** ○議員立法でやるべき。当局任せではなく、せっかくここまでまとめあげたのだから最後まで自分でやるべき。 **【議会発言】** **→（１２月２４日に可決した会津清酒を促進する条例についても、議員立法の要請があった。ただなぜ議員立法をしなかったか。議会には予算提案権も人事権もない。当局が条例を制定すれば、その推進に責任が生じてくる。）** **【参加者発言】** ○今回の産業振興基本条例は、理念条例なのだから乾杯条例とは発想が違うと思う。市長が制定し、責任を持てというのはおかしいのではないか。

	【議会発言】 **→（議会が提案すれば、絵に描いたもちになる可能性がある。皆さんからのご意見を元に、計画を策定し、予算を確保し、実行をしていく。これが出来るのはやはり市であると考える。）** **【参加者発言】** ○順序が逆ではないかと感じはじめた？まずは会津の、業界の実態を知る。その為に意見交換会重ね、条例を提案、制定するべきではないのか。私自身今日初めてお会いする方もたくさんいる。ところで、会津ライナーが廃止されるという話もあるが、当局、議会は知っているのか？動かないのはおかしいのではないか。 **【議会発言】** **→（今回の議会が提案する地場産業振興基本条例は、確かに理念条例であるが、これまでの既存条例の反省を踏まえ、生きた条例にすることが重要である。それには産業振興会議を位置づけ、ご意見を伺いながら、計画作成、実行をしていくことが重要である。）** **【参加者発言】** ○産業振興会議をするためには、条例がないと出来ないのか。 **【議会発言】** →（条例に位置づけることで、いつでも開催できる、また皆さんの発言に重みが出てくる。） **【参加者発言】** ○消費者代表ということで区長会をお招きすべき。 **【議会発言】** **→（ご意見として伺います。）** **【参加者発言】** ○同友会で１２年前から取り組んでいるがやはり課題なのが理念という概念である。理念という言葉だけで何もできないのではないかとの誤解、意見がある。なんでこの条例を提案しているかというと、国が大企業しか見ていない現状がある。理念条例は我々中小企業にとってスタートである。

	また国と地方自治体を動かすために条例を作る。作ってから３つ行動が重要。①実態調査　②産業振興会議、ただし条例で一定程度縛らなければ参加者は集まらない　③政策を練り上げる。これが大事である。 **【議会発言】** →（ご意見として伺います。） **【参加者発言】** ○会津を振興する際には、外部からの意見も聞き、また内部の課題を考えることが重要である。 **【議会発言】** →（議会が提案している産業振興会議は、金融機関や学識経験者なども組織し、外からの目をいただけるそういう意図もある。慶応大学の植田先生からは、小さな商店が持続できる環境を作っていくことが地域活性化につながるとの話もあり、一人二人の従業員が１００店あれば１００人、２００人の雇用が維持される。そういう考え方でいきいきとしたまちを作っていこう、産業振興会議の中で議論をしようという考えがあり、今回の意見交換会を開いたしだいである。）